

\*\*\*市議会からのお知らせ\*\*\*

◎新議長に笠原議員を選出しました。

丸山前議長のご逝去にともない、新たに笠原晴彦議員を議長に、星野正仁議員を副議長に選出しました。任期は4月の改選までです。

◎3名欠員のまま2月定例会議を行います。

与口議員と三井田議員の辞職を認めました。このため2月定例会議は欠員3名のまま行います。

2019年統一地方選挙の予定

- 3月29日(金)県議会議員選挙告示
- 4月7日(日)県議会議員選挙投開票日
- 4月14日(日)市議会議員選挙告示
- 4月21日(日)市議会議員選挙投開票日

旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひいたします。皆様のご健康ご多幸を心よりお祈りいたします。

「中越沖地震」「阪神淡路大震災」「関東大震災」などが発生したとき、議員定数の維持を支持しています。現在山積する柏崎の課題の解決にはそれなりの議員数が必要だと判断したからです。今後は、議会内の環境を整え、議員定数の削減の検討を進めていきたいと考えています。さらに、議員報酬および政務活動費の削減に取り組んでいくことも必要だと考えています。

「中越沖地震」「阪神淡路大震災」「関東大震災」などが発生したとき、議員定数の維持を支持しています。現在山積する柏崎の課題の解決にはそれなりの議員数が必要だと判断したからです。今後は、議会内の環境を整え、議員定数の削減の検討を進めていきたいと考えています。さらに、議員報酬および政務活動費の削減に取り組んでいくことも必要だと考えています。



後援会長が代わりました

4年前、重野議員が市議会選挙の立候補を決意した時から重野まさき後援会の後援会長を務めてこられた入澤稔様に代わりまして、今年1月1日をもって今井廣一が後援会長を務めることになりました。現在は重野議員が所属している北園町の町内会長を務めております。紙面上でのご報告になってしまいましたが、よろしくお願ひいたします。



今井廣一後援会長

2月定例会議の予定

2月19日(火)～3月20日(水)

\*2月28日(木)が代表質問

\*3月6日(水)・7日(木)が一般質問

「重野まさき後援会」への入会を募集しています。ホームページからも入会できます。

ホームページ <https://www.masakishigeno.com> Eメール [info@m-shigeno.net](mailto:info@m-shigeno.net)

後援会事務所 ☎0257-24-1671 ★重野正毅はフェイスブックもしています★

人を、まちを、未来を、つなげる  
しげの  
重野まさき通信

第16号 平成31年1月25日発行

発行：重野まさき後援会  
事務所：〒945-0072 柏崎市北園町19-47  
連絡先：☎0257-24-1671  
発行責任者：今井 廣一 (後援会内部討議資料)

重野まさきを囲む会を開きました (12月2日)

毎年この時期に行っている重野まさきを囲む会(後援会総会)です。年々参加者が増えていることは嬉しいことです。重野議員在住および近隣町内の町内会長様や中央コミセン役員の皆様方をはじめ、教職員OBや陸上競技協会の皆様など今まで以上に多くの参加者があり、厚いご支援のすそ野の広がりを感じました。また、激励の言葉の中に重野議員の存在価値に触れる表現が多くあったことから、多方面への関わりの深さやこれからの期待の大きさがうかがえました。

重野議員からは「人口減少・少子高齢化」問題について、現庁舎跡地の利活用、ものごとの捉え方の話がありました。すべてのものごとには2面性としてメリット・デメリットやベネフィット・リスクなどがあるのですから、できるだけポジティブに考え、明るく生活していくことで、効果的なアイデアも生まれてくるものです。

ご参加くださった皆様、ありがとうございました。



柏崎市教育センターが移転し、学校併設型に(4月から)

～「ひきこもり支援センター」は「元気館」へ～

<現在の機能>	<移転先>
研修センター機能	柏崎小学校内
理科センター機能	第一中学校内
ひきこもり支援センター機能	元気館
教育相談機能(ふれあいルーム)	市役所教育分館3階
教科書センター機能	ソフィアセンター



柏崎小学校



産業大学の敷地内にある柏崎市教育センターが今までのような独立型ではなく、学校併設型の教育センターとして4月に生まれ変わります。市役所が移転した後も、このまま学校併設型として継続していきます。

以下は重野議員からの教育センター関係の一般質問を受けての市長答弁の抜粋です。

**(市長答弁)** 教育センターは大事だと考える。教育センターがある自治体とない自治体があることから、教育センターの設置は必須のものではない。

子どもたちの学力を伸ばしてほしいとして設置してきたという一面もある。柏崎の児童生徒の学力水準が、これだけ教育にお金も投じ時間も投じスペースを投じているのに、県内の他の自治体の児童生徒の学力に比べて抜きん出ているかと言えばそうではない。より一層教育センターとしての機能を発揮してもらいたい。教職員の利便性の向上を考え、町中にもってくる。研修内容のさらなる充実を図り、学校併設型にしてこれまで以上に教育センターに拠点性を高めてもらう。



## 高柳中学校の第五中学校への統合(2020年4月から)

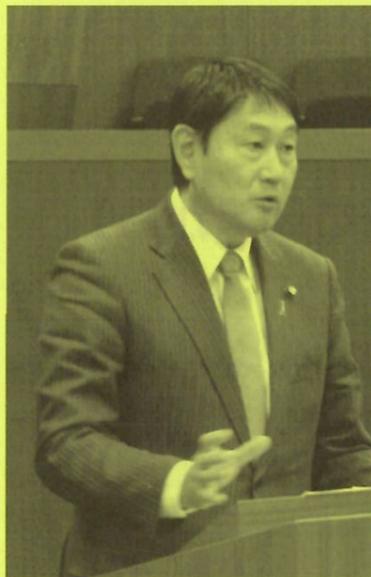


平成31年度に高柳中学校で複式学級が生じる見込みとなったことから、これまで地域及び保護者と協議を進めてきました。その結果を受け、平成32年(2020年)4月に統合することになりました。

高柳中学校



## 12月定例会議での重野議員の一般質問



### 1 「柏崎学」の廃止について

「柏崎学」とは、第五次総合計画の中では「ふるさと柏崎の魅力を学び、柏崎の未来の活性化を図る人材を育成する教育」と説明されています。

この「柏崎学」の廃止に関わり、市長からはご自身の学校教育についての考えとして以下のような答弁がありました。

**(市長答弁)** 柏崎学という名前での教育活動は廃止していくが、柏崎について学ぶということは今まで以上に充実させていく。柏崎に対する思いや愛着や誇りを育てていかなければならない。そういうものに資するものが柏崎学と考える。

先生方をお願いしたいことは、学校は知育というものは絶対に欠かすことはできない、何よりも学力・知育を求めたいと考える。

すべてが数値化されるものではないが、同時に数値化されるものがある。客観的データを先生方も認識してもらいながら、キャリア教育、教科指導のバランスを取ってもらいたい。

答弁を聞く限りにおいては、学校現場で教育活動に取り組んでいる教職員とは柏崎学やキャリア教育、あるいは学力の受け止めにやや差があるかもしれません。しかし、学校では確かな学力を身に付けさせることにさらなる努力をしてほしいということは市民全体の願いでもあることを自覚して「頑張れ」という教職員への激励だと受け止められます。

## 2 学校におけるSNSに関わるいじめの対応

**<問題意識>** ある新聞社が十日町市で小中学生を対象にSNSに関わるいじめの調査をした。その結果として出た数値の割合を柏崎市の小中学生の人数に当てはめると、「ネットいじめを見たことがある」小学生はおよそ30人、中学生はおよそ50人。「いじめを書かれたことがある」小学生はおよそ8人、中学生はおよそ18人と推測できる。これほど多くの訴えは柏崎ではないが、潜在的にこのくらいの人数は存在しているものと強く受け止め、対策を考える必要があると考える。

**(質問)** SNSのいじめへの関わり方や対応の仕方には学校間に差が生じないようにする必要があると思う。教育委員会としての考えを伺う。



**(教育長答弁)** SNSに関わるいじめに対しては対応に苦慮するケースが多くある。学校だけでは対応しきれない関わり方の難しさがある。そのため警察やネットパトロール委託会社など関係各機関との連携を強化していく。保護者に対する啓発活動をより一層効果的に進めていく。

SNSのいじめの特徴や対応の難しさから、今後は必要に応じて弁護士に相談するなどの対応もしていかなければならない状況もあると考える。学校が対応できる範囲を超えるケースもあることから、購入者である保護者に対しても、管理監督の責任や対応について理解を求める必要がある。保護者とともに考える場をつくっていく。



重野議員と市長との教育に関する議論は、お互いが教員経験者ということもあり、迫力がああります。考え方全てが一致しているということではありませんが、柏崎の教育の向上を目指していることに違いはありません。これからも議論を交わしながら柏崎の教育を高めてほしいと思います。

## 会派から市長に「予算・施策要望書」を提出しました(10月26日)

毎年次年度の予算・施策に対して各会派から市長へ要望書を提出しています。以下は会派「柏崎のみらい」としての主な要望です。2月の定例会議に出される一般会計予算にどれだけ反映されているのかを確認していきます。



- 快適な生活を支える環境(持続可能な公共交通、特に路線バスの在り方の検討と利用促進)
- 地域エネルギービジョンの確実な実施(低炭素機器導入事業に力を入れる)
- 企業誘致(ニーズに合った企業誘致活動を展開し、企業支援を行い、雇用創出に取り組む)
- 誰もが安心できる健やかな暮らしをつくる(子どもの医療費および保育料補助の拡充)
- 地域ぐるみで子どもや若者を育てる(指導補助員等の増員など学校教育環境の整備を進める)
- スポーツを通じて魅力あるまちづくり(ライフステージに応じたスポーツの推進)
- 新庁舎周辺整備と市役所跡地の課題(現庁舎跡地の利用の在り方の検討を進める)
- 高柳、西山地区について(両町事務所の継続とその充実を図る)
- 消防、救急体制について(資格の取得や更新のための経費の個人負担の軽減)